

No. 66

2007

2月1日発行

萩の郷

発行者
下市田区
発行責任者
木下 豊
印刷
下市田・キタバヤシ印刷

ふるさと一番！

“下市田” いいとこだに



ふるさと祭り、おしるこ店にて

一昨年は「愛」。そして昨年、二〇〇六年の世相を象徴する漢字の一字は「命」。

なにか暗くて悲しい事件、事故が多く、命の大切さ、重さを痛感。反面また、ほっとした話題の一つに、皇室にも新しい命の誕生があり、「命」の尊さ、素晴らしさを実感できた、そんな年でもありました。

十一月、「ふるさと祭り」のコミュニティ・テント村、下市田区の「おしるこ店」での微笑ましい話題を一つ。

大盛況の店に御前崎市から観光キャンペーンで訪れた、数人の女性が立ち寄って下さいました。パッと咲いた花を囲んで早速、記念撮影。

「どうぞ、下市田にゃあ海はねえけど、いいとこだで、お嫁にこんかな？」
「ワー、いいですネ！」その時、横でおしるこを食べとった年配のお母さん二人、その話を聞いて「ほい、うちに年頃のいい息子がいるんだけど、どうぞ来てくれんらか」

けっこう話が盛り上がりておりました。その後の経緯は聞いておりませんが、いい娘さんが下市田を「第二のふるさと」に選んでくれるとうれしいんだがなん。

とても温かい雰囲気、テント村、楽しい二日間でした。

区の情勢について

区長 木下 豊

▲下市田区が二年間無火災表彰を受賞しました
一月七日の高森町消防団出初式の折、下市田区が平成十六年九月十三日以降二年以上建物火災がなかったことにより、飯田広域消防本部表彰を受賞しました。消防団員の日ごろの努力に感謝し、これを契機に区民各位の防火意識を一層高め、無火災を続けることが出来ますようお願いいたします。

▲角田原の今後について

角田原は農業振興地域(第一種農地)に指定されていますので、ごく一部を除いて自分の農地でも許可を得ないと、勝手に宅地などに転用することができない地域になっています。ところが近年農業従事者の高齢化や広域農道の開通などにより、このままの形ではいけない状況になって来ました。そんな中、昨年七月下市田の農業委員の総意として下市田区に対し、この地域の将来の方向付けをしてほしいとの要請がありま

した。区としては農業委員に対し農業委員会が中心となつて、関係地権者等による検討を依頼したところ、関係者の懇談会、地権者の意向(実態)調査等が行われ、関係農家の意向や実態を知ることができました。このことに基づき区としても土地利用委員、区三役、農業委員の合同会議等も行い、その結果、農業従事者の高齢化対策、農業試験場の今後の動向、開発による排水対策等から考えると、下市田区の範囲で解決できる問題でないと判断し、角田原の将来の方向付けを、町の総合的な計画の中で早急に具体化してもらうよう、町へ要望することとし、次の五項目に纏めて十二月四日高森町長宛お願いしました。

一、広域農道の開通により土地の流動化が急速に進む中で、地権者の意向を踏まえ、この地域の将来の農業振興、及び土地利用のあり方を、早急に具体的な形で示されるようお願いします。
二、角田原は第一種農地であることを再確認し、営農支援センターとの取り組み等による、発展的な農業を推進するための対応、また農業者が不利にならない営農環境が、整備されるようお願いします。

三、地権者の意向を見ると、農業を続けたい人と農地を転用(売却・賃貸)したい人の農地が混在しているの

新任氏子総代の紹介と新しい体制

氏子総代 甕三郎

氏子総代 甕三郎

三郎

ご支援ご協力を戴き総代相互の親睦を深め一生懸命尽してまいります。

二〇〇七年の新春を迎え氏子皆様方のご健勝をご祈念申し上げます。昨年十二月総代の任期満了に伴い、三人の先輩が退任されました。長い間祭事に奉仕に又後任の指導に尽され感謝申し上げ引継ぎをしました。新しい体制、総代長 甕三郎(六区)、副総代長 三村修(三区)、会計 林隆俊(二区)、松島和由(二区)、中塚昭美(四区)、伊奈川和彦(五区)。総代長として甚だ未熟の身でもとよりその器ではありませんが、氏子皆様方のお祈り申し上げます。

委員会活動報告

消防委員長 松田忠弘

昨年に引き続き地元で活躍の三名の方にそれぞれテーマで講師をお願いし、防災研修会を師走の十日に実施しました。大勢のご参加をいただき、委員会目標の一つである区民の皆様に対する「重要性と関心」を



林 隆 俊

三 村 修

甕 三 郎



伊奈川和彦

中塚昭美

松島和由

「防災と福祉」というお話の中で、防災と福祉は同じ、最後に田中眞佐子さん、区民の皆様、備えに当たって、かつての日本人の心を



た。支館と分館の館長・主事に加え、下市田の女性ふるさとの代表の方が主体となって共同作業で無料の配布を行いました。

ふるさと祭り コミュニティテント村

下市田「おしるこ店」

十一月十六日・十七日は、生憎の肌寒い天候の中で、ふるさと祭りが開催されました。コミュニティテント村で下市田は、毎年恒例となっておしるこ店を出店しました。



全員そろいのかわいい赤のエプロンとバンダナを着用すると、気分はすっかりおしるこやさんになります。配布は二日間で七回です。

一日目の初回配布は10時15分。肌寒い天候で、客足が心配でしたが、20分前には長い行列ができてしまったため、予定より5分早く配布を開始しました。あっという間に三百食を配布完了。この調子で初日三回のおしるこの配布は一回につき三百食から四百食が、みんなあつという間に完了してしまいま

した。

災害に強い町は 福祉の町

ひとたび災害が起きると寝たきりや認知症などの老人、目・耳・足などの身体に障害のある人、知的や精神の障害のある人、それだけではありません。小さな子どもを抱えるお母さん、妊婦さん、みんな災害要援護者です。

『雨がどんどん降って三六

いました。

二日間で二千五百食のおしるこを、町民の皆さんに提供出来たことが嬉しく、その達成感に包まれました。

松崎記

災害を思い出して怖くなった。私が何かしなければいけないとは思ったが、何をどうすればいいのか困った。隣に独居のおばあさんがいる。他にも援助の必要な人はいるのだろうけど、昔のように地域の中が見えない。地域の人々で考えていくことが必要なのは、被災地での救助は80パーセントは家族や近所の人だそう。地域のつながりのいいところは、建物の下敷きによる犠牲者、行方不明者は少ないということです。

常日頃から近所の方と顔を合わせ、いざという時の協力も含めて話合っていただきかと思ひます。福祉は、人々がお互いに助け合って幸せを実現することです。

要援護者と協力者の関係は、いつか逆転するかもしれない。持ちつ持たれつ、お互い様の関係です。

高森社協 田中眞佐子記

新刊図書紹介

一月八日、部員が平安堂にて新刊の本を購入しました。幅広い分野から合計38冊選びました。

最近本離れが言われていますが、皆さん是非、気軽に来館して、ご利用して下さい。

江原啓之のスピリチュアル子育て、子どもを伸ばす家族力、がばいばあちゃん、強奪箱根駅伝、ユウヤの伝説①②、この子はこの子でいいんだ、新勉強の常識、じゅうにしのおはなし、あしたともだち、拝啓父上様、子どもへのまなざし、長生き競争、羽生善治夢と自信と、陶工房43

購入図書一部紹介

ちびまるこちゃんの四字熟語教室・語源教室・慣用語教室、血糖値をぐんぐん下げるコツがわかる本、抗がんサプリメントの



利用方法

- 一、来館した折にいつでも借りられる。
- 二、図書貸出簿ノートに記入するだけ。
- 三、貸出期間は一ヶ月

平成17・18年度 公民館活動を振り返って

代議員会長

小島孝彦



一、本館と支分館事業計画
温度差拡大

本館事業の企画は、前年
踏襲、マンネリ化により興
味性、新鮮性に欠け、自治
区により異なるもののこの
対応に各部員は参加人員確
保に苦慮。

分館長会長

日吉宇平



公民館の行事は例年同様
に、町公民館・支館・分館
と多岐に亘っております。
先輩の皆様、区民の皆様の
ご指導とご協力を得て、数々

二、公民館活動への若者
参加者の減少

小中高生部活動の休日
開催、一般休日勤務者・
パート労働者の増加によ
り、不定期休日による為
統一休日が不安定。一方
同居型家庭の減少と、核
家族・アパート家族の増加
による老人と子供の接点の
不足等、休日利用が多様化
し参加者の減少が年々進ん
でいる。

三、育成会と老人クラブと
公民館活動への接点不足
年齢差と考え方の違った
組織を、一つの事業にまと
める公民館事業は困難の連
続、老人・子供親睦スポー

の事業を、無事参加遂行
できました。

町公民館においては、
春はスローピッチソフト
ボール大会、ソフトバレー
ボール大会。夏は本格的
な盆野球大会。秋は二年
に一回の町民運動会があ
り、ふるさと祭りに於いて
は、下市田分館は、区役員・
支館三役・分館長・主事・
コミュニティー役員・婦人
ふるさとの役員の方々と分
担で「おしるこ店」を出店
参加しております。冬はペ
タンク大会が有り、ほとん

ツ会では老人はゲートボー
ルかペタンク。子供はサッ
カーかドッジボール。片方
はスローペース、一方はス
ピードが希望。

四、分館事業問題点の修正
各自治会実施のふれあい
広場は、全戸全員参加型で
毎回盛大に出来て、最も活
気と親睦が図れる事業であ
るが、子供・親・中年齢者
は大満足。一方老人は見
ているのみ、出番に恵まれず
やや不満、課題残す。

自治区は子供育成会・P
TA・各クラブ・老人クラブ・
常会長がそれぞれの希望に
合わせた公民館事業に盛り
込んだ活動が求められる。

どの大会は、各分館二十二
チーム対抗の競技となつて
おります。

支館では萩の里まつり、
文化祭り敬老会、ぐるりウオ
ーキング、春の萩山神社春
祭りに参加し、又各分館で
は独自行事を色々と計画実
行しております。

特に印象深い「ぐるりウオ
ーキング」では、十七年度
の松岡城址・日限地蔵、十
八年度の江戸ヶ沢川・惣平
堤防など史談会・自然愛護
会の皆様の丁寧な説明を
受け、先人が残した貴重な

支館部長

北沢文治



支館部長を引き受け二年
の任期も残り僅かとなりま
した。各区から選出された
三十四名の支館部員二十名
と、支館三役の編成でスター
トしました。

年間の活動は例年と同じ
く町議との懇談会、萩の里
祭り、文化祭り敬老会が主
な行事です。その他に年に
三回の「下市田区報・館報」
の発行と下市田図書館の図

財産を実感でふれ、知識を
増すことができました。

地域の皆様との出会い、
又コミュニケーションをと
ることもでき、多くの感動
を与えていただき、楽しい
思い出ができた二年間でし
た。

分館長の任も残り少なく
なりました。皆様のご協力
ご参加ありがとうございました。

書の購入、管理等を行っ
て来ました。

六月の「町議との懇談
会」は地元出身の町議さ
んと直接質疑応答が出来
る大変良い機会でした。

七月の「萩の里祭り」は
準備の段階から各方面の
皆様のご協力を頂き、子供
さんからお年寄りまで多く
の参加者で盛大に出来まし
た。十月の「文化祭り敬老
会」は、各クラブの展示や
舞台発表があり、それぞれ
に一年間の成果を感じる事
ができました。もっと多く
の方に見ていただければ、
各クラブとも一層の励みと
なる事でしょう。

それぞれの行事を含め年
間に三十数回の会合があり
ます。公私ともに忙しい時
間帯に都合をつけ、活動を
盛り上げてくれた部員の皆
さんには感謝申し上げます。
区民の皆様とのふれあい、
部員の方々と公民館活動
の思い出は、私のこれから
の人生に、大きな財産とし
て残ることと思います。
最後に下市田区と公民館
活動の発展を願い、次期部
員の方々に襁を渡します。
長い間ご協力とご指導を頂
き、ありがとうございました。

萩山郷土芸能保存会

幹事長 木村善徳



の糧として後世の人々に伝統を絶や
すことなく伝えて
行きたいと考えます。

昨年十二月の総会で、不肖私が芸能保存会の幹事長を拝命致しました。二百十年余の永い歴史の1ページを担える誉と同時に、責任の重さを充分感じております。もとより浅学非才ではありますが、役を引き受けてこの任を全うしたいと思っています。

平成十九年度 幹事会役員

幹事長	四区 木村善徳
副幹事長	五区 小林猛邦
会計幹事	三区 仲平信男
副会計	四区 林清志
備品幹事	二区 岡田信男
副備品	二区 松島弘幸
幹事	一区 垣屋良人
一区	北沢茂
三区	片桐竹雄
五区	佐々木章
六区	北原護
六区	上沼武人
囃子部	部長 寺沢正勝
囃子部	副 小川修
囃子部	副 原文夫
獅子部	部長 上沼宏一
獅子部	副 三浦伊佐夫
獅子部	副 池野剛
獅子部	副 坂牧博夫

下市田の郷土史と民俗⑤

元旦が済み、明けて二日は一年の「事始め」の日である。先に戻るが、元日に泣いたり、お金を出したたりすると年中泣き通したり、お金の出費が嵩んだりすると言われ、事を始めには随分気を遣ったものである。



斗缶から燃え上がっている火で寒気を和らげ、開店を待っていたものである。店が開き、お目当ての買い物をする、今とは違い、店のお得意様と分かれると、法外な景品が頂け、それだけでも楽しみだった。朝早くから背負い籠をしょった大人達が、出砂原の街を行き交う様子は、まさに買い初めに相応しい風景であった。買い初めに限らず、仕事始めと言って女の人は針仕事、男は藁細工(ゆいそ・藁細・藁草履・さん俵など)田舎の青年団は、近くの集会所に集まって「仕事始め」の行事をした所もあった。明日の恵比須(大黒様)開きに備え、福縄や鯛も藁で作った。元日の雑煮食と違って、今朝は炊き初め(米食で)を行き、山芋をすり(すり初め)ご飯にかけて食した。此の意味は、長く粘り強く一年間を過ごせるようにとの願望が込められた食事である。

松の内(七日正月)

斗缶から燃え上がっている火で寒気を和らげ、開店を待っていたものである。店が開き、お目当ての買い物をする、今とは違い、店のお得意様と分かれると、法外な景品が頂け、それだけでも楽しみだった。朝早くから背負い籠をしょった大人達が、出砂原の街を行き交う様子は、まさに買い初めに相応しい風景であった。買い初めに限らず、仕事始めと言って女の人は針仕事、男は藁細工(ゆいそ・藁細・藁草履・さん俵など)田舎の青年団は、近くの集会所に集まって「仕事始め」の行事をした所もあった。明日の恵比須(大黒様)開きに備え、福縄や鯛も藁で作った。元日の雑煮食と違って、今朝は炊き初め(米食で)を行き、山芋をすり(すり初め)ご飯にかけて食した。此の意味は、長く粘り強く一年間を過ごせるようにとの願望が込められた食事である。

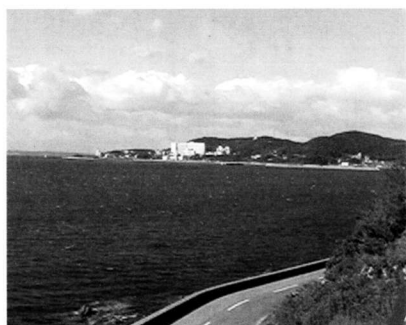
思い出に残る 分館長・主事研修旅行

平成十八年十一月十一日・

十二日、一泊二日の研修旅行を行いました。今回は区・支館の役員・前期の分館長・主事にも参加を呼びかけ、総勢十七名の賑やかな研修旅行となりました。

一日目は浜松市にある龍潭寺と竜ヶ岩鍾乳洞を見学後、みかわ温泉海遊亭にて一泊、のんびり温泉に入り、宴会は、食べて、飲

済には影響なさそう。こうした昔ながらの習慣も時代の流れには逆えず、農村は元より全国的に簡略化されたり、消滅したりで、高寿会などの集まりの話題となり、過去を懐かしむ声が多い。一方では、郷土行事を復活させようとのうねりも各地に見られる。今でも思い出すのは、車に商品を載せて、「初荷」の幟を立てた初売り風景で、今も脳裏に焼き付いている。明けて三日はおえびす(恵比須・戎)開きと言って、神棚を日の丸扇と福縄と鯛(藁鯛)で祭り、鯛でご飯を頂く風習も家によって行われた。(次号に続く)



木下敏記

ようこそ下市田へ

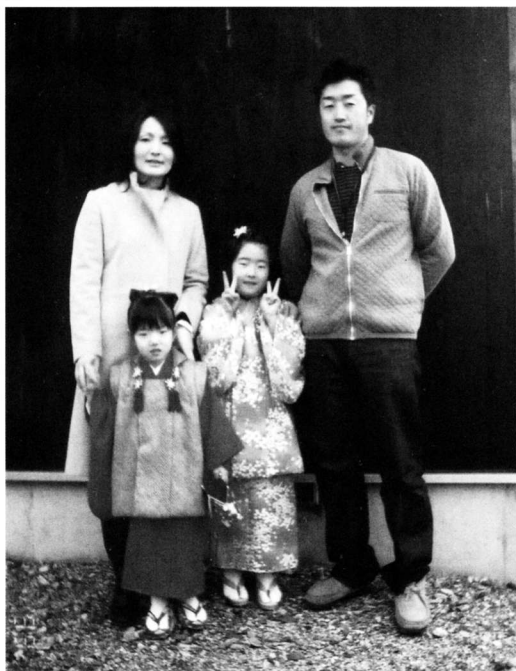
二区 浅間 慎也

下市田の皆様、こんにちは。私達家族は、飯田市鈴加町から下市田二区に引っ越して三年になります。

とは言いまして、学生時代と結婚してからの数年を高森町から離れていただけで、生まれも育ちも高森町です。近所には年の近いお子さんが多くいます。子供はもちろん、私達も早く地域の方達と仲良くさせていた

くことを少々恥ずかしく感じております。(笑) しかし、自分の家庭をもちこちらに引っ越して来て、子供の頃とはまた違った意味でこの地区の方々とつながりを大事にしていかな

ければと感じております。ここで家族の紹介をさせていただきます。私と妻、六歳と三歳の娘の四人家族です。今年、上の娘が小学校入学を迎えますが、私共も通った南小学校への入学を控え、とてもなつかしくまた、同じ学校に通わせられる事を嬉しく思っています。



涙 定量

四区 木村 喜久雄

「涙定量」という言葉があります。昔の聖賢の残された言葉です。「涙定量」ということは、人にはそれぞれ生涯に流す涙の量は決まっているということ。

若い時に苦勞し、涙を流す人は末の人生が平安になる。若いうちに流れなかった涙は年老いてから流れる。



命ながらえて

五区 藤松 千年男

秋明菊の種がほほけて、時雨に濡れている。来年この花の咲く頃に果して……こんな感慨は日常のことである。八十八まで生きると、一事が万事ろくなことは考えない。

この間SBCラジオで3時5分から、6分間喋った。まさか誰も聞く人もあるまい、と思ったのに、夕方長野の友人から「畑で働いていたら、ラジオで声が聞こ

若い時の苦勞は何事にも代え難いということなのでしよう。

「努力」「勤勉」「忍耐」といった言葉が風化しつつある世相への警鐘の言葉と

思っています。数年前心を病む二十代半ばの女性より夜10時頃でし

た「死にたい」と電話がありました。こんな電話は初めてで驚きました。遠方の娘さんで何度かお母さんと

一緒に過ごしていたことがあり、便りもいたっていました。うつ病に悩

むような声で電話をかけてくれた。上伊那の友人から

も葉書で知らせがあり、近くの仲間からも何人か、外で働いていて、ラジオで聞いたと話してくれた。

近頃新聞に私の顔写真が載ったせいか、一別以来音信の絶えていた友人三人から、息を吹きかえしたような便りが届いた。

あたり前のこ



はその歳になって泣くもんじゃないと言われますから私は泣けません。泣いてもいいんでしょうか」という言葉が来ました。私は悲しいとき、泣きたいときは大いに泣くことです、と申し上げたとたんに大声で泣き出しました。

今三十歳です。時々便りをくれます。元気ができたようで安心していきます。天からいただいた命、その定量の涙は常々若いうちに

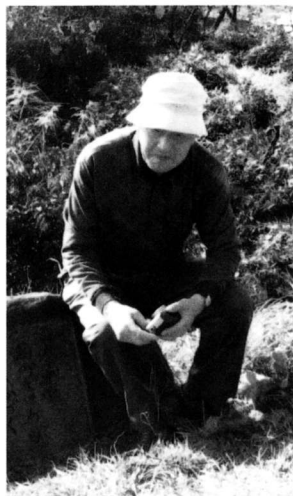
出すことがいいと思います。「暗愁」の思いを大切に

泣いて、笑う人生を歩むことです。

十歳の若さで戦死した。又、学生時代寮の同室で、同じ本を読み、共に音楽を聴き歌った三人の親友も、若き命を国に殉じて逝った。

思えば、私一人がとり残されて、生きるともなく生きながらえて、今ではその命をもて余している。暁闇に目覚めてふと思う。生きてくても生きられなかった命、その声なき声にどう応えたらいいものか。

呆老人のたわごとである。大切な結語を書く紙幅が尽きた。尻切れトンぼで誠に申し訳ない。





A black and white photograph of a young woman with dark, shoulder-length hair and bangs. She is smiling broadly at the camera and making peace signs with both hands. She is wearing a dark jacket over a light-colored shirt. The background is a plain, light-colored wall.

小六村上華奈(二区)

いろいろなお店をペアーとまわったりクラスの人とペアーでお店をだしたりした児童会祭り。そしてスキー教室などいろいろな思い出がありました。小学校最後となる思い出は、一年生から六年生までの成長の思い出です。

もありました。最初で最後の三月十六日は、卒業式で思い出は、国会議事堂や日本科学未来館やANA機体工場や落語やデイズニールや東京タワーなど楽しかった最高の修学旅行。意です。

中二 坂元雄太郎（四区）



今、僕が夢中になっていることは水泳です。なぜ夢中になっているかというとなぜ全国中学の標準記録に近づいているからです。僕が水泳をやりはじめた理由は友達がやっていて、いっしょにやりましたことと、僕

くるとは思いませんでした。そして、自分の一番得意な種目はバタフライでしたが今は個人メドレーです。個人メドレーはバタフライ、背泳ぎ、平泳ぎ、自由形と4種目泳ぎます。なので四つとも全力で泳ぐのでとて

と
はぜんそくだったからです。自分でもここまでくるとは思いませんでした。そして、自分の一番得意な種目はバタフライでしたが今は個人メドレーです。個人メドレーはバタフライ、背泳ぎ、平泳ぎ、自由形と4種目泳ぎます。なので四つとも全力で泳ぐのでとても疲れます。そして昨年のも十一月十二日にあった秋季SCという大会で長野県の強化選手標準記録を突破し強化選手になれました。そして十二月二十七日から三十日に行った県強化合宿に

朝7時30分、区長以下十七名は区民会館を出発し安曇野へ向いました。

去る十月二十
九日（日）支館
編集委員会の研
修旅行が行われ
ました。

前日夜半に雨が降りましたので少し天気の方が心配されましたが、それもと

こし苦勞に終つた
ようで、快晴の秋の青空の下、

行ってきました。その合宿では同じ学年の人が数人いました。他にも年上の人がいっぱいいました。速い人たちの泳ぎをしっかりと見てきました。そして、家に帰って二日間休養をとり、また一月二日から四日まで合宿に行ってきました。合宿をがんばったせいか一月七・八日の大会では、ベストが出ました。400 m個人メドレーではライバルに勝つこともできともうれしかったです。この調子で練習をがんばり、全国中学に出場できるように体調などにも気をつけていきたいと思います。

最初に訪れた七倉ダムは高瀬溪谷の三つの発電用ダムの一つで、ロックフィル方式という遮水・フィルタ層のまわりを岩石で固めたダムでした。その前で集合写真を撮影しましたが、その時野生のサルが現れ、我々を歓迎しているようにも見えました。

次に訪れた大町エネルギー博物館は理科の実験室みないで、体験しながらエネルギーの原理について学ぶようになっている、委員の中でも童心に返り無邪気に遊ぶ

でしたので親子連れの姿も目立ちました。

昼食をはさみ、三つ目に訪れた場所
所は岩崎ちひろ美術館でした。

展示されている絵画からは、とてもきれいでやさしい“イメージが見る人に伝わってくるようでした。それと同時に美術館の造りがバリアフリーになっていて、「一人でも多くの方にこの絵画を見て欲しい」という



美術館側の気持ちも伝わってくるようでした。

最後に大王わさび農場の
広大なわさび畑を見学し、
あずみのガラス工房ではス
タッフの方々の展示された
作品を見学しました。

午後6時過ぎ、一行は無事区民会館に到着しました。

日頃の区報編集から短い時間ながら、楽しいひとときを持てましたので、これをエネルギーに任期の最終号となる第66号では二年間の集大成となる区報にしたいと思いました。

新井記

地域の紹介

四区の現状

四区副自治会長
橋都 榮一

四区は百余戸が一堂に会する良い機会だ。と、戸数の少ない自治会です。東は夕映え道、西は農免道、北は間ヶ沢、南は湯ヶ洞線で、中央の里山に松岡城跡がどしりとり位置している。最近、愛護会の手が入り、堀他全体像がはっきりして、実に垢抜けて見える様になった。行事としては、ふれあい広場を行った。同じ地域に

住み乍らお互い話をする機会がないのが実状で、年一回老若男女



9月の「ふれあい広場」

また、漸進会では、恒例の元旦マラソン大会を町内に呼び掛ける事で、他地区からの参加者も増えてきて、盛会になっている。これも会のまとまりと努力の賜と感謝している。数年前に、飯田市山本より花の木を取り寄せて各戸へ植樹したが、だいが成長し芽吹き、紅葉が眼に映える様になってきた。我が自治会もスローテンポであるが、花の木同様成長してきている。

グループ紹介

「押絵教室」

一区 礫石タカ子

私達「押絵クラブ」は、町の公民館活動の押絵教室に参加しています。山吹・吉田・下市田

と町全体の教室です。その中でも、下市田区の人々が八人と大勢の方が参加しています。町のふる里祭りの展示会には、毎年参加しています。十月の下市田区文化祭の展示会には、昨年初めて参加させて頂きました。押絵教室の学習は、始めは短冊に、南天・千両など小さなものから始め、回を重ねると、季節の草花、桃の節句にふさわしい立ちびな、端午の節句にはかぶとなどを、色紙に押絵で描きます。押絵教材のセットの型紙に合せ、綿を入れ布で形を作りはり合わせて絵にまとめます。先生にご指導い



また民俗資料館の三月のひな人形展には何度か押絵を展示したり、市田柿の展示会の時には柿の押絵と、布で作った市田柿のれんを展示させて頂きました。時には安曇野の中村栄年先生「押絵の館」、飯田押絵教室展示会などの見学に行き他の作品を見て、参考になればと思っています。

区民会館大掃除

会館はみるみる一年間の埃が取れてさっぱりと

師走を迎えていよいよ寒い風が吹き始めた十二月三日の日曜日、午後2時から3時半まで、各区の分館長・分館主事の皆さんと、支館三役・支館部員によって、区民会館の大掃除が行われました。正面玄関や高い天井のすす払い・窓拭き・トイレ掃除・部屋やロビーの掃除機かけ・雑巾がけ等、それぞれ割り当てられた分担で、作業は手際よくまた丁寧に進められました。大勢の人の力は大きく、

最後にロビーの高い蛍光管が取り替えられ、無事大掃除が終わりました。これから地域の皆様の交流の場として、この区民会館が、大勢の方々に御利用頂けるように願っております。一年間ありがとうございました。支館部員

編後集記

区報66号をお届けします。編集を担当して二年間、今回が最終号となりました。この間、本当に大勢の方々から温かいご支援、ご協力を頂きまして、なんとか無事大任をはたすことが出来ました。このことを、厚く御礼申し上げます。

二年間の締めくくりということで、各種視察研修の報告もあり、また、公民館活動をふりかえってという特集に一頁を割くなど、盛りだくさんな内容となりました。また、五回目となりました、史談会の「郷土史と民俗」は、今後も続きま